



②聖火羽後路を行く

東京オリンピックの開幕を目前に控え、聖火リレーの通る秋田市など関係市町村では、沿道をきれいにして聖火を迎えようと清掃に励みました。

オリンピック発祥の地、ギリシャで採火されてからひと月経った9月22日、矢立峠を越えて待望の聖火が秋田に入りました。県内6市22町村を結ぶ国道280キロを、約4,400人の若人によってリレーされていくのです。(略)

人見(ひとみ)実行委員長に渡された鮮やかなオレンジの火が聖火台に移され、盛大な歓迎会が行われます。

25日再びリレーが開始され、聖火は県都を後に快い秋晴れの羽後路を一路東京を目差して南下したのです。

②海にきたえる～船川水産高校



県立船川水産高校は、日本海を見下ろす丘に立つ県内唯一の水産学校です。本格的な夏に入り生徒達は今、合宿生活をしながら救助の方法や人工呼吸、また手旗信号の訓練に励んでいます。

生徒にとって最も楽しいのは海洋実習です。練習船での海水の調査をする生徒達は真剣そのもの。こうして未来の海の男達、船川水産高校の生徒達の夏期訓練は8月いっぱい続けられます。

～次回の上映会は11月3日(日・文化の日)に開催予定です～

令和元年度秋田県公文書館企画展(前期)

「海と川と湖と」

本日から開催 是非お立ち寄りください

会場 当館2階特別展示室

期間 8月29日(木)～9月23日(月)

■ 秋田県公文書館 ■

〒010-0952 秋田市山王新町14-31

TEL 018-866-8301

FAX 018-866-8303

E-mail koubunshokan@pref.akita.lg.jp



県政映画上映会

～秋田昭和の時代 映像アーカイブ～

令和元年8月29日(木)
午前の部：午前11時～正午

秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午後の部：午後2時～午後3時

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 作品上映 ◆

I 昭和34年8月「県政ニュースNo.22」

- ①はなやかに進水 ②栗駒山峡にダム築く
- ③みこしの滝あび ④秋田城跡発掘始まる ⑤伸びる工業用地
- ⑥十和田・八幡平駅伝競走全国大会開く

II 昭和36年6月「県政ニュースNo.33」

- ①春の交通安全 ②国体トピックス…築山小マスゲーム、交通局バスガイド研修、本荘高校ボート部
- ③釧路への定期船～定期航路開設

III 昭和37年3月「県政ニュースNo.39」

- ①予防で健康なまち ②にぎわう田沢湖高原
- ③春は間近かに ④県民の窓～大曲の綱引き

～ 休憩 ～

IV 昭和38年10月「県政ニュースNo.51」

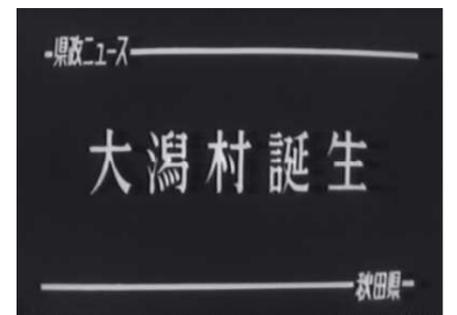
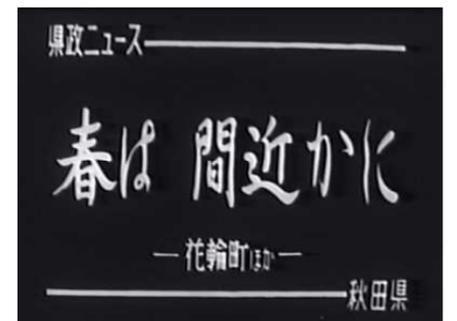
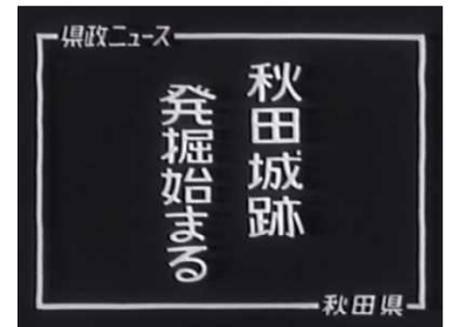
- ①若い農村めざして ②トピックス…大型コンバイン実験、国体記念スポーツ大会、プリのかん水養殖
- ③ふるさと散歩…象潟

V 昭和39年10月「県政ニュースNo.61」

- ①大潟村誕生 ②聖火羽後路を行く
- ③みのった健康な稲作り ④ふるさと散歩…小又峡

VI 昭和40年9月「県政ニュースNo.71」

- ①全国農村青少年技術交換大会開く
- ②トピックス…海にきたえる～船川水産高校、待望の道路工事(川原毛～泥湯)
- ③ふるさと散歩…岨谷峡



～はじめに～

郷土秋田のニュース映像を6本上映!

秋田県内でのテレビ放送が始める前の昭和30年、県では当時人気の「映画」の幕あいに上映する広報に新たに取り組みました。「県政だより」「県政ニュース」などの名前で上映されたこの広報は、県政や地域の紹介など多くの話題を提供しました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し皆様にご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は、昭和39年東京五輪の聖火リレーの模様や、9月に開催される「全国豊かな海づくり大会あきた大会」にちなみ郷土の水資源を紹介する映像など6本の作品を上映します。

いずれも当時を偲ばせる貴重な映像ばかりです。懐かしい昭和の秋田をぜひご覧ください。



～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■

I 昭和34年8月「県政ニュースNo. 22」



⑥十和田・八幡平駅伝競走全国大会開く

第12回十和田・八幡平駅伝競走全国大会は去る8月6日、緑に包まれた国立公園十和田湖の開会式でその幕をあけました。参加26チーム、前年度優勝常磐炭鉱チームから優勝旗の返還。全国マラソン連盟会長金栗さんも全選手を激励。

いよいよ翌7日午前10時、26チームの第一走者が湖畔休屋を一齐にスタートしました。コースは休屋から湯瀬温泉までの4区間、53.6km。まずゼッケン1番の常磐を中心に、リッカーミシン、秋田同和鉱業、オール青森、東洋大学などが一団となって和井内湖畔

を通過。九十九曲がりの急激な坂道へかかります。(略)

遂に、昨年に続いて常磐炭鉱チームが3時間3分20秒で堂々連続優勝を成し遂げ、2位東京リッカーミシン、3位東京昭和高压、4位秋田同和鉱業で鮮烈のレースはここに終了したのでした。

II 昭和36年6月「県政ニュースNo. 33」



①春の交通安全

東北にもようやく若葉香る5月11日から10日間、今年の春の交通安全旬間が全国一斉に行われました。特に国体を秋に控えた本県では、この安全旬間を機会に新しい交通道徳を打ち立てようと県民こそっての協力ぶりを見せました。

新しい道路交通法が生まれたのは去年の12月。しかし激増する自動車台数と狭い道路が災いして交通事故の方はあいも変わらず増加する一方。すでにこの5月現在で県内の事故は380件、死傷者は270人を



数えています。原因はスピードの出し過ぎや、踏切などの一時停車を怠ったための自動車事故が多く、また歩行者の不注意、子どもの路上遊びも大きな原因となっています。

県警察本部ではこうした事故を無くすため、新道交法に基づく交通取り締まりの強化と交通道徳の高揚、通行者の指導に力を入れています。またこれと平行して民間では新生活運動によるラッシュアワーの列乗車励行や小学校の児童らによる交通整理が行われ、またボーイスカウトも交通安全にひと役かうなど自主的な動きがこれまでに無いほど高まっています。

しかし事故を未然に防ぐためには、なんと言っても皆が今まで以上に交通に対する認識を深め、常に正しい交通方法によることが大切です。そして、こうしたお互いの注意によって初めて事故のない明るく住みよい町や村を作ること出来ようと言うことです。

III 昭和37年3月「県政ニュースNo. 39」

③春は間近かに～十和田湖のヒメマスふ化



十和田湖畔和井内にある十和田湖孵化場ではヒメマスのふ化作業が始まりました。摂氏8度のふ化槽に入れられた卵は3ヶ月で生まれます。このメダカのような稚魚も3年で立派なヒメマスになります。3百万尾にもものぼるこのヒメマスの子は、池の中で春を待ち4月頃広く澄み渡った十和田湖へ放たれるのです。

春はこのように雪深い秋田のあちこちで息吹いているのです。春はもうそこまで来ています。

IV 昭和38年10月「県政ニュースNo. 51」

③ふるさと散歩…象潟



日本海に面して長く連なる町、象潟。人口1万5千の小さな町だが観光と史跡の町として知られている。

荒れ狂う小砂川海岸。夏は涼しさを求める人たちの絶えない所である。日本海まで裾野を広げる鳥海山。

この山は、秋田山形両県に跨がってそびえ立つ、東北第2位の霊峰として知られている。象潟は鳥海登山口としても有名であるが、この山も今年国定公園に指定された。両県の協力でさらに国立公園への飛躍が期待される所である。

新日本観光百選にも選ばれている景勝・奈曽の白滝。皇宮山蛇満寺。今から1,700年の昔、神功皇后が三韓征伐の帰途、嵐にあって流れ着いた所と伝えられている。以来この寺には西行法師、猿丸太夫など数々の旅人が訪れ、全11巻の旅客集にその歴史が留められている。

「象潟や 雨に西施が ねぶの花」俳聖芭蕉の名句はこの象潟を象徴している。かつては九十九島と呼ばれ入り江に大小の島を配した絶景の地であったが、鳥海山麓一帯の大地震で湖底が隆起し、一夜にして現在の姿に変わったのである。(略)